

「人」に密接に関わる仕事

法律事務所で働き始めてから、早くも8回目の春を迎えた。

学生時代はスーツや鞆などを販売するアルバイトをしていた。お客様のニーズに合った商品を探し、サイズを選び、お客様の嬉しそうな顔をみる事が何より嬉しかった。この仕事を通じて、接客業の楽しさとやりがいを感じるようになった。そして、将来は接客業の仕事につきたいと考えるようになった。

法律事務所職員
泉 雅剛

父の話を思い出して

そんな時、幼い頃に父から聞いた話を思い出した。父は以前、解雇問題で弁護士に8年間お世話になったことがある。弁護士をはじめ、多くの支援者が手弁当で父を応援してくれたおかげで、無事に職場復帰を成し遂げられた、という話だ。

父の話を受け、「モノ」を販売する接客業もやりがいはあるが、もっと「人」に密接に関わる仕事、人のためになる仕事がしたいと思うようになった。

依頼者が再出発できるところまで

私が法律事務員になって関わる事が一番多いのは債務整理事件だ。いろいろな依頼者がいて、いろいろな事案がある。それぞれ事情は異なるが、誰もが苦しんだ末に法律事務所に訪れる。中には、借金苦で死を考えている人もいた。ギリギリの状況だ。その人たちと密接に関わりながら、弁護士と一緒に解決をしていく。事件が無事に解決した後、「死」を考えていた人が「笑顔」になって帰って行く。法律事務員になってすぐに先輩から言われた言葉がある。私たちが関わる事が多い債務整理事件は、単に仕事をこなせばいいのではない。依頼者が本当の意味で人生を立て直し、再出発できるところまで手助けをしていく事が重要なのだ、と。この言葉を常に心がけるようにしている。

残業代未払い事件で考えたこと

また、最近では、残業代未払いの事件にも関わるこ

がある。残業代計算は正直、苦手だ。あるケースでは、分厚く綴じられた業務日報2年分を、一枚一枚捲りながら、エクセルに入力していく作業を行った。始業時間も就業時間も毎日バラバラで、どの時間が残業時間なのかわからなくなる。何だ、この不規則な労働時間は?! 入力するのが面倒くさいじゃないか。他人の残業代計算のために、自分が残業している状況にイライラした事もある。しかし、入力しながら気づかされた。このような不規則な労働条件で実際にこの方は働いていた。しかも、ほとんど休日もなく昼夜を問わず働いていることに驚かされた。こんなに働かされていたのに、残業代が支払われていない…。次第に怒りを覚えるようになった。残業代は時効によって2年を過ぎると認められないことがある。一刻も早く労働時間を特定しなくてはならない。残業代計算は苦手だが、私がきちんと計算をすることで、依頼者に残業代が支払われる。私がこの事件に関わるのはごく一部分だけではあるが、裁判が終結し、残業代が認められた事を知ると嬉しく思う。

誰かのためになっている、と思える仕事

法律事務員の仕事は、日々、異なる。自分が密接に関わる事件もあれば、一部しか関わらない事件もある。しかし、どのように関わったとしても誰かのためになっている、と思える仕事だ。できるかぎり、不安を抱えている人や、弱い立場にいる人を支えていきたい。他人の人生に深く関わる仕事だからこそ、自分なりに一所懸命向き合っていきたい。